

F/T09

フェスティバル/トーキョー
PRESS RELEASE

『Hey Girl!』

ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ【イタリア】

演出：ロメオ・カステルッチ

3月10日(火)～14日(土)

於：にしすがも創造舎



(C) Francesco Raffaelli

比類なき造形美と、“生”の深淵に触れる奇跡の象徴演劇一。

異才カステルッチ、満を持しての初東京公演！

お問合せ：フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨4-9-1 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン内 TEL 03-5961-5202/FAX 03-5961-5207

制作担当：ハッセル t-hassel@anj.or.jp

F/T 広報担当：及位（のぞき） toiwase@anj.or.jp

／ ロメオ・カステルッチ、待望の初東京公演！

イタリアの異才アーティスト、ロメオ・カステルッチ率いるソチエタス・ラファエロ・サンツィオは、1981年、ロメオ・カステルッチ、クラウディア・カステルッチ、キアラ・グイディアによって設立されたアーティスト集団。グループ名はイタリア・ルネサンス期を代表する画家ラファエロ・サンティにちなんで命名された。演劇、美術、音楽、身体表現、文学など、あらゆる芸術ジャンルを横断しながら独自の舞台言語を創造・展開してきた。

一度見たら忘れられない強烈なイメージと比類なき造形美、“生”の力強さや残忍さ、人間存在のゆらぎをも舞台空間に出現させる圧倒的な力は、ヨーロッパのみならず世界中からも大きな賞賛を受け、現在、世界のアートシーンを牽引するグループの一つに数えられる。

代表作としては、今回フェスティバル/トーキョーに招聘される『Hey Girl 』(2006年初演)のほかに、2001年から2004年にかけてヨーロッパの10都市の著名な劇場やフェスティバルとの共同製作によって製作・上演された『トラジェディア・エンドゴニディア』シリーズなどがある。

日本では、1997年利賀フェスティバルで『オフィーリア』が初来日公演を果たしたほか、2006年から08年にかけて、キアラ・グイディアが演出を手掛けた子供向け演劇『親指こぞう ブッケティーノ』が日本各地の公共ホールを巡回したのが記憶に新しい。今回、12年ぶりのロメオ・カステルッチ再来日、しかも初の東京公演は、日本の演劇界のみならず芸術表現にたずさわる多くのクリエイターたちに大きな刺激と影響を与えることが期待されている。

／ 作品について

今回来日する『Hey Girl 』は、象徴演劇ともいべきカステルッチの演劇世界の特色が色濃く映し出された代表作といえる。

霧に包まれた何もない舞台に、一人の少女が「脱皮」し誕生する。「ヘイ・ガール！」-とっさに女性を呼びとめるこのセリフの対象は、彼女であると同時に、聖母マリアであり、ジュリエットであり、ジャンヌ・ダルクであり、あるいは名もなき無数の女たちである。一人の少女の心象-「少女」から「女」への通過期におとずれる不安や葛藤、その超越-は、歴史的・文化的記号の中に反射され、そのイリュージョンは完璧な美しさゆえにある種の不気味さをたたえている。

カステルッチの演劇に、明確な物語はない。ただ寓話的な、あるいは歴史や絵画から引用された記号や身振りが舞台を支配し、その強烈な残像は見る者の網膜に焼き付いて離れない。

／ 演出ノート

ロメオ・カステルッチ

この作品のインスピレーションは、故郷で信号待ちの時にバス停で立っていた少女たちの一群を見たときにやってきた。彼女たちは、荷物がいっぱい詰まったリュックを背負い、化粧をしていた。それぞれがそれぞれのバスを待っていた。会話もなく。互いに見合うこともなく。

信号が青に変わる瞬間—、この作品のタイトルが私の頭に去来した。それからひたすらこの2つの言葉を追いかけていた。

私は待った。さらに待った。そのあとに何が起こったかは分からないが、その作品は、ある人間の心の肖像画によってなされるのではないだろうかと考えた。

誰かが目覚め、起き上がり、出かける支度をする。そして外に出る。それだけの話だ。それは一日かかることがあるし、一年かかることもある。暦のように。

／ 劇評

カステルッチは連想の多様性で観客を感動させること、そして神秘的な力で圧倒させることを望み、形而上的で緊張した世界を創造した。

テアター・デア・ツアイト、ベルリン

催眠のように美しい… 劇場でなかなか観る機会がない視覚的な反響…カステルッチは「動きの劇」と名付けるにふさわしい、精巧な強烈さに満ち溢れる。

フィナンシャル・タイムズ、ロンドン

女性に対する黙想によって、ロメオ・カステルッチは現代演劇界の最も大胆で新鮮な創造者だということは確実である…

バラエテ

/ アーティスト・プロフィール



ソチエタス・ラファエロ・サンツィオは、1981年に、ロメオ・カステルッチ(演出)、クラウディア・カステルッチ(作家、姉)、キアラ・グイディ(ドラマトウルク)によって、彼らの生まれ故郷、イタリアのエミリア・ロマーニャ地方にある都市チェゼーナで結成された(ラファエロ・サンツィオはダ・ヴィンチやミケランジェロと並んでイタリア・ルネサンス期を代表する画家で「聖母の画家」との異名をとったラファエッロのことである)。その舞台の特徴は、絵画的な額縁舞台を生かして提示される造形性、人を不安にさせずには置かないほどのその完成度、そこに凝縮して込められた隠喩的あるいは寓意的な意味、さらにスコット・ギボンズによるこれまた独特の音響世界にある。

ソチエタス・ラファエロ・サンツィオを主宰する演出家ロメオ・カステルッチは1960年生まれで、ボローニャの美術学校で美術とセノグラフィを学んだ後にカンパニーを結成、1990年代の歴史と悲劇を主題とした作品群(『ハムレット』1992年、『オレスティア』1995年、『ジュリオ・チェザーレ』1997年、『創世記』1999年)によって、その名は国際的に知られるようになり、高い評価が確立していった。2001年から2004年にかけてなされた『トラジェディア・エンドゴニディア』シリーズは、ヨーロッパの10都市(チェゼーナ、アヴィニョン、ベルリン、ブリュッセル、ベルゲン、パリ、ローマ、ストラズブル、ロンドン、マルセイユ、最後に再びチェゼーナ)において、著名な劇場やフェスティバルとの共同制作によって11の「エピソード」を上演するものだった。

2006年に制作された『Hey Girl!』以降、クラウディア・カステルッチやキアラ・グイディはそれぞれ独自の道を歩み始め、ロメオ・カステルッチが単独で作品創作を手がけるようになった。キアラ・グイディはスコット・ギボンズとのコラボレーションを続けながら、声の専門的なクラスを開いている。神奈川芸術文化財団にて日本語版の『ブクケティーノ』の再演の演出もした。クラウディア・カステルッチは「ストア」というリズムとムーヴメントの学校に注力している。アヴィニョン演劇祭ではかねてから常連であったが、2008年にはアソシエート・アーティストとして、ダンテの『神曲』に着想を得た三部作(『地獄篇』、『煉獄篇』、『天国篇』)を一挙に発表するとともに大きな成功を収め、その才能に揺るぎがないことをあらためて見せつけることとなった。

主要な上演作品

- 1992 『ハムレット』 Hamlet
- 1994 『ブクケティーノ』 Bucchettino
- 1995 『オレスティア』 Oresteia
- 1997 『ジュリオ・チェザーレ』 Giulio Cesare
- 1999 『創世記』 Genesi
- 1999 『夜の果てへの旅』 Voyage au bout de la nuit
- 2000 『イル・コンバットメント』 Il Combattimento
- 2001-4 『トラジェディア・エンドゴニディア』 Tragedia endogonia
- 2006 『ヘイ・ガール!』 Hey Girl!
- 2008 ダンテ神曲3部作 『地獄篇』 Inferno, 『煉獄篇』 Purgatorio, 『天国篇』 Paradis

(執筆: 藤井慎太郎)

／ 特別寄稿

『Hey Girl!』は2006年11月にパリのフェスティバル・ドートンヌの招待作品として、国立オデオン劇場(アトリエ・ベルティエ)で初演された作品である。この作品から、演出に関わる作業はロメオ・カステルッチが一人で手がけるようになった。

女性性と変身のイメージの連鎖

作品には物語と呼べるような物語は存在しない。ロメオ・カステルッチにいわせれば、「誰かが目覚め、立ち上がり、出ていこうと支度をする。出ていく。終わり」というほどの話であり、「直線的であり平面的であり、海に向かって平野を下る川の流れるようなもの」であるという。だが、タイトルにもあるように、少女性あるいは女性性は、この作品の大きな主題である(カステルッチは作品創作に際して、まずタイトルを考え、そこからアイデアとイメージをふくらませていくという)。主役を務めるシルヴィア・コスタの移ろいゆく存在を通じて(誕生から旅立ちまで)、継起するアレゴリー(寓意)的なイメージが描き出され、聖母マリアの受胎告知、『ロメオとジュリエット』のジュリエット、ジャンヌ・ダルクなどの時代や個性を超えた穢れなき女性のイメージが(そうとはっきり示されることなく)繰り広げられ、重ね合わせられる。

美しい悪夢

カステルッチが見せるイメージは、一分の隙もなく構築された絵画や映像のようである(ロバート・ウィルソンのイメージの演劇をもっと極限まで押し進めたものだといってもよいかもしれない)。彼の作品は、額縁(プロセニウム・アーチ)を備えた伝統的な劇場空間のなかで、舞台と客席を明確に分離した上で、観客を寄せつけず、観客のいる世界とはまったく隔たった世界を描き出す。その世界はあまりに美しく崇高でさえあり、だが完全すぎて同時に見る者の不安を掻き立てずにはおかない。アメリカはシカゴ在住のスコット・ギボンズによる音楽もまた、その印象を増幅する。彼の音響世界は、単なる効果音や背景音楽をはるかに超えて、観客の感覚を鋭敏にし、揺さぶり、視覚世界と反響し合ってやはり不安を引き起こす。シルヴィア・コスタは気味の悪い粘着質の液体の中から登場してその美しい身体をさらす。上からつり下げられた円形のガラス板は(太陽や月、あるいは人の眼を思わせる円のモチーフは、カステルッチの作品にしばしば登場する)、次々に砕け散る。完璧すぎる美は不安定で、不気味なものと紙一重であり、はかなくも崩壊を余儀なくされるのだ。

カステルッチのほかの作品と同様、『ヘイ・ガール!』が見せる究極のイリュージョンの世界は、あらゆる観客の脳裏に焼きついて忘れられない経験となるだろう。

藤井慎太郎(早稲田大学准教授)

／ キャスト/スタッフ

演出： ロメオ・カステルッチ Romeo Castellucci
出演： シルヴィア・コスタ、マリアナ・クララ・ペレス Silvia Costa, Mariana Clara Perez
音楽： スコット・ギボンズ Scott Gibbons
映像： ステファン・デューヴェ Stephan Duve
舞台監督： セルジオ・スカルラテラ Sergio Scarlatella
照明技術： ジアコモ・ゴリーニ Giacomo Gorini
舞台技術： フェデリコ・レプリー Federico Lepri
美術： プラスティックアート、イストヴァン・ジツメルマン Plastikart, Istvan Zimmermann
制作： ジルダ・ビアシーニ、コセッタ・ニコリーニ Gilda Biasini, Cosetta Nicolini
制作アシスタント： エウジェニオ・レスタ Eugenio Resta
広報： ベネデッタ・ブリグリア Benedetta Briglia
管理： エリサ・ブルーノ、ミケーラ・メドリ Elisa Bruno, Michela Medri
管理アドバイザー： マツィミアアーノ・コーリ Massimiliano Coli

製作： オデオン座 Odeon Théâtre de l'Europe
共同製作： フェスティバル・ドートンヌ(パリ)、スタイリシエル・ヘルブスト(グラーツ)、ル・マイ
ヨン劇場(ストラスブール)、デ・シンゲル(アントワープ)、プロデュークティエフィス・
ロツテルダム、カンカルイエヴ・ドン(リュブリャナ)、TRAFO-現代芸術の家(ブダ
ペスト)、ソチエタス・ラファエロ・サンツィオ
Festival d'Automne (Paris), Steirischer herbst (Graz), Le-Maillon Théâtre
(Strasbourg), de Singel (Antwerpen), Productiehuis Rotterdam, Cankarjev dom
Ljubljana, Trafò House of Contemporary Arts (Budapest), Societas Raffaello
Sanzio

主催 フェスティバル/トーキョー Festival/Tokyo
特別協力 イタリア文化会館 Istituto Italiano di Cultura
後援 イタリア大使館 Embassy of Italy, Tokyo



公演/チケット情報

会場	にしすがも創造舎
チケット料金	全席自由 一般 4,500 円/学生 3,000 円(要学生証提示) /高校生以下 1,000 円
お取扱い	フェスティバル/トーキョー(HPのみ)、ぷれいす(電話のみ)、 電子チケットぴあ(Pコード:391-404)、イープラス

公演スケジュール

3/10 Tue	3/11 Wed	3/12 Thu	3/13 Fri	3/14 Sat
19:30	19:30	19:30	19:30	14:00

F/Tパフォーマンス チケット 2008 年 12 月 18 日(木)前売開始 ※F/T 参加作品は対象外

■チケット取扱

フェスティバル/トーキョー(HPのみ) <http://festival-tokyo.jp>

ぷれいす(電話のみ) 03-5468-8113(平日 11:00-18:00)

電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード予約) <http://pia.jp/t> ※『サンシャイン 63』と『演劇/大学 09 春』は対象外

イープラス <http://eplus.jp> ※『サンシャイン 63』と『演劇/大学 09 春』は対象外

- ・指定席の場合、開演時間に遅れたお客様はご指定のお席にお座りになれない場合がございます。
- ・未就学児童のご入場はお断りさせていただきます。
- ・受付開始及び当日券の販売は開演 1 時間前、開場は 30 分前からとなります。
- ・チケットの払戻、観劇日の変更はできません。
- ・チケット料金には消費税が含まれます。

F/Tパフォーマンスを、選んで観る。全部観る。誘って観る。学生も観る。

フェスティバル/トーキョーならではのお得なチケットでお楽しみください。 ※フェスティバル/トーキョー・ぷれいすのみ取扱い

◇F/T 回数券 選んで観る! ※お好きな演目を選んでご覧いただけます。(『サンシャイン 63』は対象外)

3 演目 ¥10,000 (¥3,333/枚)、5 演目 ¥15,000 (¥3,000/枚)

◇F/T パス(13 演目)全部観る! ※全ての演目をご覧になれます。(『サンシャイン 63』は対象外)

¥30,000(¥2,300/枚)

※F/T 回数券、F/T パス(13 演目)のお取扱いについて

- ・2 月 13 日(金)18:00 まで販売(限定枚数)
- ・観劇演目・日時が未定でも購入できます。
- ・購入後は演目・日時のご予約を受付けます。
- ・予約なしでも当日ご入場出来ます。但し、満席時はご入場頂けない場合がございます。
- ・確実にご覧頂くためには演目・日時予約をお勧めいたします。
- ・回数券・パスはご本人様のみ有効です。

◇ペアチケット 誘って観る!

チケット 2 枚分の料金から 10%OFF でご購入頂けます。(例/¥4,500×2 枚=¥9,000→¥8,100)

※2 名同日観劇のみお受けいたします。 ※当日券のご用意はございません。 ※『演劇/大学 09 春』は対象外です。

◇学生料金 学生も観る!

学生 全演目 ¥3,000(要学生証提示) 高校生以下 全演目¥1,000

※東京芸術劇場中ホール公演は S 席 ※当日でもご購入できます。

◇Port B セット券(『雲。家。』『サンシャイン 63』) ¥6,400 (¥3,200/枚)

※ぷれいすのみ取扱 ※2 月 13 日(金)18:00 まで販売(限定枚数)

3 演目	¥10,000 (¥3,333/枚)	F/T パス	¥30,000 (¥2,300/枚)
5 演目	¥15,000 (¥3,000/枚)	ペアチケット	10% OFF

/ フェスティバル/トーキョー09 春 開催概要

名称	フェスティバル/トーキョー09 春 Festival/Tokyo 09 spring
会期・会場	2009年2月26日(木)～3月29日(日) 東京芸術劇場 中ホール 小ホール 1・2 あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) にしすがも創造舎
プログラム	F/T パフォーマンス 14 演目 F/T 参加作品 5 演目 F/T プロジェクト(シンポジウム/ステーション/クルー)
主催	東京都 財団法人東京都歴史文化財団 フェスティバル/トーキョー実行委員会 豊島区、財団法人としま未来文化財団、NPO 法人アートネットワーク・ジャパン
共催	社団法人国際演劇協会(ITI/UNESCO)日本センター
事業共催	国際交流基金
協賛	アサヒビール株式会社、株式会社資生堂
助成	財団法人アサヒビール芸術文化財団
後援	外務省、社団法人日本芸能実演家団体協議会、社団法人日本劇団協議会
協力	東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、 豊島区観光協会、社団法人豊島産業協会、社団法人豊島法人会
宣伝協力	株式会社ポスターハリス・カンパニー
平成 20 年度文化庁国際芸術交流支援事業	
提携事業	東京芸術見本市 2009

/ 写真/クレジット一覧

『Hey Girl!』



© Steirischer Herbst/Manninger



© Francesco Raffaelli



© Francesco Raffaelli

- ・ ご利用になる場合は、写真家のクレジットを必ず併記してください。それぞれの写真で、写真家名が異なりますのでご注意ください。



© Francesco Raffaelli



© Steirischer Herbst/Manninger

ポर्टレート ロメオ・カステルッチ



© Societas Raffaello Sanzio

- ・ ご利用になる場合は、写真家のクレジットを必ず併記してください。それぞれの写真で、写真家名が異なりますのでご注意ください。